

CANCER MEWS (キャンサー・ミュース)では、三重大学病院における最前線のがん治療についてお伝えしています。

2022/08 Volume no. 1 膵がんの集学的治 日本でも有数の治療成績を持つ 三重大学病院の取り組み 肝胆膵・移植外科/一般外科

教授·科長 水野 修吾

go MIZUNO, M.D., Ph.D. Department of Hepatobiliary Pancreatic and Transplant Surgery, Mie University Hospital

早期発見や治療の難しさから、難治性 がんとして知られる膵がんにおいて、 全国でも良好な治療成績をあげている 三重大学病院。

それを可能にしているのは、様々な診 療科や職種の専門性を結集したチーム 医療と全国最多の肝胆膵外科高度技能 専門医を擁する手術体制です。

肝胆膵・移植外科の水野修吾科長に話 を聞きました。

膵がんは、"難治性のがん"と言われます。

膵臓は、胃の背中側に位置しており、一般的な検診で行うレントゲンや胃 カメラでは見つけられません。また、血液検査でも膵がん発症の診断は困 難です。発見のためにはCT検査など高度な検査が必要となる、早期発見の とても難しいがんです。

さらに、進行がんである場合が多く、血管へも浸潤しやすいため、がん細 胞が血流にのって肝臓や肺に転移してしまい、発見時には手術適応外の状 態であることも少なくありません。

もう一つ、膵臓の手術は、すぐ近くに動脈や門脈という血管があること や、血管の切除や吻合といった高度な技術を必要とすることから、腹部臓 器の中で最も難易度が高いとされます。このような特徴が、膵がんは難治 性のがんと言われるゆえんです。

CANCER MEWS

膵がんの集学的治療

2022/08 Volume no. 1

一 治療法の確立はまだまだなのでしょうか。

国立がん研究センターのがん情報サービスによると、全国の膵がん全症例の5年生存率は、2008年に6.8%でしたが、2021年は11.3%と発表されました。この改善は、十数年の中での抗がん剤や手術手技の進歩によるものと言えます。しかしながら、同データの大腸がん70.4%、胃がん68%に比べるとまだまだ低く、治療法のさらなる進展が待たれます。

"

手術と化学放射線療法を 組み合わせた集学的治療。 これまで500人以上の患者さんが 良好な成績を示しています。

そんな中で、三重大学病院の治療は全国的に も注目されているそうですね。

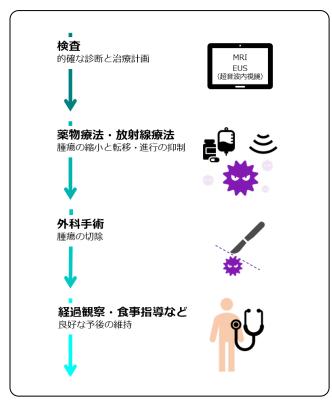
当院は、手術と化学放射線治療を組み合わせる「集学的治療」(図表1)を取り入れています。集学的治療は、現在多くのがん治療で行われていますが、進行膵がんについては、組み合わせのバランスやタイミングの判断が難しく、多様な視点が必要であるため、実施する医療機関はあまり多くありません。

当院では、まず腫瘍の縮小と転移の抑制を目的として 抗がん剤と放射線による治療を実施し、その後、外科 的に切除をします。抗がん剤や放射線による治療は、 手術前の2ヶ月弱行いますが、心配される副作用の頻 度は低く、ほとんどの患者さんは外来通院で受けられ ています。

これまでに500人以上の患者さんがこの治療を受けられ、良好な成績を示しています。

ー どのくらい良好な成績なのでしょうか。

当院で化学放射線治療の後に手術を行った患者さんの5年生存率をステージ別に見ると、ステージI: 100%、ステージIIa:50.5%、ステージIIb:38.9%、



図表 1. 三重大学病院がチーム医療で取り組む膵がんに対する集学的治療

進行度による膵がんの分類		三重大学病院における 集学的治療後の 5年生存率(実績)
I	がんの大きさが2cm以内	100%
lla	2cmより大きく、 リンパ節転移がない	50.5%
Ilb	2 cmより大きく、 リンパ節転移がある	38.9%
Ш	がんが近くの血管(動脈)に 浸潤している	25.5%
IV	肺や肝臓などに遠隔転移が ある	(抗がん剤治療のみで (集学的治療は行わない)

図表2. 三重大学病院の集学的治療による膵がん患者さんの5年生存率

ステージIII:25.5%となっています(図表 2)。 先ほどご紹介した国立がんセンターの膵がん全症例 (全国・全ステージ)での5年生存率11.3%と比較す ると、ステージIIIの患者さんであっても、当院での集 学的治療が良好な成績であることがわかります。

CANCER MEWS

膵がんの集学的治療

2022/08 Volume no. 1

"

診療科や多職種の連携と 国内最多レベルの 肝胆膵外科高度技能専門医を擁する 高い外科手術の体制。 ワンチームで 一人ひとりの膵がん患者さんの 治療にあたります。

そうした結果を導き出せている理由は、どんなところにあるのでしょうか。

一つは、肝胆膵・移植外科だけでなく、内科や放射線 科など病院全体としてのチーム医療があると考えてい ます。

膵がんがわかると、まずは、できるだけ早期に消化器 内科で確実な診断を行い、次に、放射線科にて、血管 への浸潤や転移について調べ、ステージ分類をしま す。正確な診断は、適切な治療に不可欠です。その上 で、ステージと個別の状態に合った手術前の化学放射 線治療を行います。 治療においても、医師だけでなく、看護師、薬剤師、 栄養士、また手術前後ではリハビリを担当する理学療 法士など、多職種のスタッフがワンチームで一人ひと りの膵がん患者さんの治療にあたります。

難しいがんだからこそ、いろいろな科や職種の専門性を結集する必要があるんですね。

その通りです。また、膵がんの手術は難易度が高いとお話ししましたが、当科には、日本肝胆膵外科学会が認定する肝胆膵外科高度技能専門医が現在9名在籍しています。この専門医の数は、全国の医療機関の中でトップです(2022年6月末現在)。

さらに、早期に診断ができた場合は、患者さんへの身体的負担が少ない低侵襲なロボット手術も行なっています。これについても、東海地区で唯一、膵臓分野の内視鏡外科技術認定医を有しており、最先端の手術も安心して受けていただける体制です。

チーム医療に加えて、こうした高い外科技術を備えた体制も先ほど示した治療実績につながっていると思います。



三重大学病院の肝胆膵・移植外科には、国内医療機関の中で最多となる9名の肝胆膵外科高度技能専門医の他、膵臓分野の内視鏡外科技術認定医も在籍している。

CANCERMEWS

膵がんの集学的治療

2022/08 Volume no. 1

— そうした強みを生かし、今後はどのように膵がん 治療に取り組んでいきますか。

膵がんに対する薬物治療が進化しつつありますが、 早期に発見することと、進行がんであっても化学放 射線治療の組み合わせで手術を行える状況にするこ とが重要です。

現在、当院の消化器・肝臓内科とともに、「膵がん 早期発見プロジェクト」という名の下、県内のクリ ニックと連携した早期診断の仕組みづくりを進めて います。

また、放射線科などと協力して、新たな薬物や放射線 治療を組み合わせたより効果的な集学的治療を研究 し、さらに治療成績を向上させたいと考えています。

"

早期発見のきっかけは、 腹痛、腰背部痛、黄疸、急な体重減少、 新規または悪化の糖尿病など。 ぜひ、定期的な検査を。

膵がん治療のカギとなる早期発見のために、気を付けるべきことはありますか。

膵がんが疑われる症状は、腹痛、腰背部痛、黄疸、 急な体重減少です。また、新規の糖尿病、または糖尿 病の急な増悪なども、早期発見のきっかけになるこ とが多いです。親族に膵がんになった方がおられる場合も注意が必要です。ぜひ定期的な検査を受けていた だきたいです。



一 最後に患者さんへメッセージをお願いします。

膵がん治療の病院選びについて質問を受けることが多いですが、重要なのは、1)専門医が何人在籍しているか、2)5年生存率などのデータをホームページなどで公表しているかの二点です。膵がんの外科手術は難易度が高く、命の危険を伴う合併症も報告されています。安心安全な手術と良好な予後に反映する治療を受けられることが大事です。

当院は、そうした条件を満たし、三重県だけでなく 県外からの患者さんも受け入れています。膵がんに対 する高度な先進治療を希望される方は、安心してご 相談ください。



肝胆膵・移植外科/一般外科 教授・科長 臓器移植センター長 消化器病センター長

少年時代に漫画『ブラック・ジャック』を読み外科医を目指した。手術を含む治療の際には、常に「もしこの患者 さんが自分の家族だったら」と問う。学生時代から続けているテニスの腕を活かし、三重大学の硬式テニス部で長 年顧問を務めている(コロナが落ち着いたら、朝練などにも参加したい)。

海のない岐阜県出身だからか、海を見るのが大好き。三重大学病院から眺める伊勢湾の静かな海も良いが、東紀州や伊勢志摩地方で見る太平洋の大海原には、いまだに感動を覚える。お酒好きとしての最近のマイブームは、焼き 鳥と焼酎ソーダ割り。人生最高の一品は、福岡県で食べた醤油とんこつラーメン。

CANCER MEWS

膵がんの集学的治療

2022/08 Volume no. 1

国立大学法人三重大学医学部附属病院について

三重大学医学部附属病院は、診療科・センター・部門の連携によるチーム医療を重視し、特定機能病院として高度かつ全人的な医療を多領域で提供しています。また、がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療拠点病院をはじめとした複数の指定・認定を受けるとともに、三重県および近隣県をカバーする医療のネットワーク構築を牽引するなど、地域医療の要としての役割を担っています。大学病院として、未来の医療を拓く研究、および優れた医療人の育成も推進しています。

https://www.hosp.mie-u.ac.jp/ TEL 059-232-1111 (代表)

国立大学法人 三重大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科について

主に肝臓、胆道、胆嚢、膵臓、脾臓の良性疾患、悪性疾患、先天性疾患に対する治療を専門としています。この領域の悪性腫瘍は難易性が高いとされますが、当科では、化学療法や放射線治療を組み入れた集学的治療の他、腹腔鏡を用いた低侵襲手術や肝胆膵外科高難度手術を中心とした高度医療を実施する体制を築いています。

また、三重県内唯一の生体肝移植施行施設および東海地区 に2拠点のみの脳死肝移植施行の一つとして、末期肝不全 患者さんに対する肝臓移植も行っています。

消化器・肝臓内科、画像診断科、放射線治療科、腫瘍内科などと密に連携したチーム医療を実践するとともに、患者さんが術後も安心かつ負担なく通院できるよう三重県下の総合病院(桑名、四日市、名張、伊賀、鈴鹿、亀山、津、久居、松阪、伊勢、志摩、尾鷲、熊野)とも連携しています。

セカンドオピニオンでの相談予約も受け付けておりますので、ご自分の病気やその治療でお悩みの方は、主治医と相談の上、ご遠慮なく当院の総合サポートセンターにご連絡ください。